

京林大だより

No.45



絵：卒業生 熊走君

R元.7

Open Campus 開催しました

7月27日(土)に開催しましたオープンキャンパスには、京林大への入学を検討中の多数の方々が来て下さいました。

開始時間が近づくにつれ説明会場（第1教室）に準備した座席はドンドンと埋まっていき、「これ以上来はったら、立ち見かな」とドキドキ。かろうじて皆さんに座って聞いていただくことができました。

説明会後には、チェーンソーによる丸太切りの実演や高性能林業機械の操作指導などで在校生が大活躍！午後から順次実施した個別相談会でも参加の皆さんに学生目線での京林大の生活について説明してくれました。また、相談会には数人の卒業生も飛び入り参加、就職後の話までしてくれました。

8月に実施しました学校説明会と併せて、延べ33名、随伴を含め67名の方々が京林大に来校し、京林大の取組や施設を見学されました。一部、高校1・2年生の参加もありましたので、入学はま

だ先になるかも知れませんが、参加の皆さんには京林大入学への気持ちを高めていただけたことと思います。

来年の春、再びこの地を踏みしめ、京林大での学業を始めていただけることを期待します。



参加者でいっぱいになった説明会場

高性能林業機械操作体験指導するのは2年生！



高性能林業機械シミュレーター



個別相談会
在校生が学生生活を語る



1年生が丸太切りを実演！



森林経営管理制度始動

これまでの京林大だよりでも紹介してきました市町村が主体となる森林経営管理制度が始まり、林業大学校では、市町村の職員の方々を対象に研修を行なっています。

市町村によって民有人工林が数haから数万haと大きく異なり、制度の実行に当たっては課題もまちまちです。

しかし共通しているのは、制度を円滑に実行する上で必要な高い技能を持った林業技術者の不足です。

林業大学校では、従来から高性能林業機械を扱える等現場の即戦力となる人材の育成とともに、地域林業の課題の解決に向けた人材の養成も行なってきました。

森林経営管理制度が本格的に始まると、市町村からますます技術者の確保への要望が強くなると思います。このような要望に応じていけるよう、さらに有用な人材を養成していきたいと思えます。



今月の授業参観

『森林公共人材専攻の取組』

8月4日（日）イオンモール京都桂川で、林業大学校のPRイベントを開催しました。

屋内のイベントコーナーで親子木工教室、丸太切り体験、林大紹介コーナー、積み木・木のプールコーナーを設け約700名の親子連れが参加しました。

森林公共人材専攻2年生4名は、卒業研究で広葉樹を使った「京丹波町の名産品」の提案を準備中で、広葉樹材を使った「10分でできるマスコットづくり」を運営しました。



左側3つのテーブルで木工教室
右側は丸太切り、奥は積み木・木のプール



校長室より

京都府知事ご来校

校長 只木良也

西脇府知事が、8月5日、林大へご来校。

府の広報「府民だより」で、農林水産業の人材育成拠点の知事訪問が企画され、知事自らが、府立の海の民学舎(伊根町)、農業大学校(綾部市)、林業大学校(京丹波町)を巡回し、知事も勉強しながら、学生たちと対話して、若い農林漁業後継者の心意気を感じようとするプログラムです。

その当日、知事さん、訪問先を考え、ノリノリの作業服姿でご来校。対応は、校長、副校長、説明役教員、夏休中なので学生は、2年生2名、1年生2名がやっと。

大学校紹介もそこそこに、学生諸君から、野外実習の説明。チェーンソー、刈払い機、ヘルメット、機械作業服……。 「うんうん」と聞いているだけでなく、知事さんもチェーンソーを手に、構えて見せる。作業服活きた！！

引き続き、知事を囲んで学生たちとの車座トーク。「知事と行き活きトーク」と称する意見交換・対話集会。学生たちは、質問に応じて、林大入学動機、林大の魅力語り、林業後継者としての意欲を述べます。知事からの、林業用機械、林業振興、山村問題、農林女子などの問題提起・質問に、自分たちの意見・意欲を答え、正に「行き活きトーク」ショー。

そして間もなく、予定時間が来て、知事と学生たち記念撮影。ここでは日常の「ハイ、チーズ」ではなく、「京都林大、何処に在る？」に「ワ～チ～！」と答える和やかな雰囲気。勿論知事さんも同調してくれて……。

知事さん帰途に。以下のようなコメントを残して。

——2040年の京都府の将来像をこの秋には策定の予定。そこには森林適正管理、府内産木材の需要喚起を提起するつもりですが。そのためには若い皆さんの知恵と工夫、チャレンジが必要。今日の学生諸君の話を聞く限り、京都の森林の未来は明るい……。